**日本テスト学会誌（The Japanese Journal for Research on Testing）**

**査読方針**

2018年9月8日制定

1. 日本テスト学会誌の存在意義

日本テスト学会誌は，テストに関する研究と実践の発展への寄与という観点からテストおよびそれに関する幅広い分野の研究成果を掲載し，読者に紹介するために存在する。何らかの観点で社会，教育，産業，学術等の発展に良い影響を与える特色が見出された研究論文は積極的に採録する。

1. 査読の原則

日本テスト学会誌に投稿された原稿（以下，投稿原稿と記載）は，「日本テスト学会誌の編集出版に関する基本方針」に則り，編集出版幹事会が選出する査読者の見識と専門性に基づき公平に審査される。査読者個人の見解や好みを日本テスト学会誌の読者に範をなすべき見識や専門性と混同することがないように，査読者には良識を持って担当論文の審査に当たることが求められる。

1. 査読の目的

査読の目的は投稿原稿が本査読方針及び査読規定に示される条件を満たしているか否かを一定の基準に照らして検討し，掲載の可否を判断することにある。掲載された論文の価値判断は読者に任される。投稿原稿を一層よくするための参考意見を付すことは重要であるが，あくまでも査読手続きに伴う付随的な行為である。書き方の指導，著者との討論は本来の査読の目的には含まれない。

1. 査読の判断基準

投稿原稿は，論文種別に応じて「分野性」「オリジナリティ」「有用性」「大規模性・希少性」「展望性」「了解性」「一貫性・論理性」「体裁」の観点から査読される。具体的には末尾に示す「附表」参照のこと。

1. 責任の所在
   1. 担当する投稿原稿の査読手続き及び査読結果に関して責任を負うのは主査である。したがって，副査の意見が査読の内容や最終的な採否の判断に反映されない場合もある。
   2. 編集出版委員会は日本テスト学会誌の編集，出版について最終責任を負う。主査は編集出版委員会が定めた査読規定に従って査読を行う責任がある。
   3. 掲載された論文の内容に関する責任は著者に帰す。
   4. 論文の意義に関わる判断は読者に任せるべきであり，査読者が読者に代わってあらかじめ論文の価値を定めようとすべきではない。
2. 査読者に求められる姿勢
   1. 日本テスト学会誌は，テスト関連分野の研究者がその意欲を高めて日本テスト学会の諸活動に貢献する契機となるために存在する。査読者は，査読の全プロセスにおいて，日本テスト学会誌の存在意義を常に意識すべきである。
   2. 査読者は，投稿者が一人の独立した研究者としての尊厳を持った存在であることを意識して，投稿者に対して査読の全プロセスにおいて十分な敬意を払わなければならない。
   3. 査読者は，投稿者に対して投稿原稿の採否を決定する強い権限を与えられた立場にあることを意識する必要がある。したがって，「不採択」の判断には慎重を期すとともに，可能な限り具体的な改善点を明示して再投稿を促すべきである。
3. 投稿者に求められる姿勢

投稿者は，投稿する以前に自らの投稿原稿に対して最も厳格な査読者としての自己評価を行い，そのまま採録されても支障がないように完成度の高い原稿を投稿するように心がけるべきである。投稿者は査読を論文指導の機会のように利用しようと考えてはならない。

本方針は2018年9月10日より発効する。